

⑥ 河内神社 こうちじんじや

元は武田山麓の河内谷にあり、武田氏から厚く崇敬されていましたが、畷山城とともに衰退しました。しかし「社殿を建てて祭れば、聖を疫病から守る」とのお告げを受けた村岡たちが、現在の場所に社殿を建立し近土神として祭ったところ、悪い病気に感染する者がなくなったと伝えられています。



⑥ 尾首日吉神社 おくびよしじんじや

正徳2年(1289年)、武田信玄が畷山城を築城する時、近江国(滋賀県)坂本の日吉神社より勧請し、一門の守護神として祭ったのが始まりとされています。畷山城落城とともに衰退しましたが、里人は社殿を現在地に移し、産土神として祭ってきました。



⑦ 勝福寺と「なます名水」 しょうふくじと「なますめいすい」

昔、白い水が湧く小さな池がありました。いつの頃からか、この水が「なます」(鱈など)に白い斑紋ができる皮膚病の俗物に効くと評判になり、多くの人々が治療のため水を持ち帰りました。治癒した人々は、仏の加護に感謝して堂を建て、「白水観音」と呼んで信仰しました。お堂に掲げられたナマスの絵はお札に奉納されたものです。しかし、人が池に入ってしまったため、白い水は出なくなったといわれています。



⑧ 熊岡神社 くまがじんじや

「窪田の八幡さん」と呼ばれていました。創建は不明ですが、言い伝えでは永正元年(1504年)、畷山城九代城主武田元景が鎌倉八幡宮(神奈川県)より勧請し、畷山城の守護神として一門が厚く崇敬したといわれています。



⑨ 新羅神社 しんらじんじや

正安2年(1300年)、武田信玄によって甲斐国から勧請されました。清和源氏の一族武田氏の先祖に当たる平安中期の武将、源義光(別名を「新羅三郎」という)を祭り、武田氏の守護神として崇敬されました。畷山城落城後は衰退しましたが、その後も里の氏神として祭られてきました。特徴的な姿の「夫婦ひのき」が御神木です。



主な参考文献
 祇園町誌/安古市町誌/郷土の歴史探訪(安佐南区公民館ネットワーク事業)/ふるさとひろしま(ひろしま郷土史研究会)/広島市の文化財第50集 古路・古道調査報告(広島市教育委員会他)/そのほか、社寺の現地解説文など

マップと資源の解説の見方
 地図面の右側を折り返すと、地図面の左半分に掲載された資源の解説を読むことができます。逆に左側を折り返すと地図面の右半分に掲載された資源の解説を読むことができます。



あさみみ散策マップ
 祇園・長東ルート
 祇園・大町ルート
 安佐南区
 まちめぐり憩いの空間ルート研究会

まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」(平成13年度～平成20年度)を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント(空間)や、これらをつなぐルートづくりを行い、平成20年度までに全18ルートが完成しました。このマップは、平成17年度に開催された「まちめぐり憩いの空間ルート研究会」において、祇園・長東、大町地区に在住の方を含む区民メンバーが調査・検討した結果をまとめたものです。



あさみみ散策マップ～祇園・長東ルート/祇園・大町ルート～
 発行：広島市安佐南区役所 地域起こし推進課 TEL:082-831-4926
 制作協力：まちめぐり憩いの空間ルート研究会
 発行年月：平成18年(2006年)3月 初版
 平成22年(2010年)3月 改訂
 平成25年(2013年)3月 改訂
 平成26年(2014年)3月 改訂

祇園(旧祇園町)

武田山・火山の山麓から太田川・太田川放水路へ続く平地に祇園(旧祇園町)の市街地が広がっています。この地域の歴史は古く、戸塚(東区)から続く米里制(奈良時代に始まる区画制)の跡がみられます。また、河口デルタが発達する以前は広島湾に面し、舟運・海運の中継点として発展します。「今津」や「帆立」など港に由来する地名はその名残です。平安時代には倉敷地(貴族や寺社などの私有地「荘園」から運ばれる物資の保管場所)が数多く置かれるとともに、佐東八日市(長東)などの市が立ち、人や物資が集まってきました。さらに鎌倉時代末期、安芸国守護の武田氏が武田山に畷山城を築くと、城下町祇園は政治・経済の中心地となりました。その後、広島城築城により中心的な機能は失われましたが、町屋が立ち並び石街道筋の集落として活気を保ち続けました。

太田川と古川、安川、山本川などによって形成された周辺の平坦地では、米のほか、野菜類、桑(養蚕)、い草(ござ)などの生産が行われていました。江戸時代中期には八木用水によって農業用水が確保され、広島城下を市場とする近郊農業地域となっていく。しかし、一方では、これら河川の氾濫に悩まされた歴史を併せ持つ地域です。

明治22年(1889年)の市町村制施行時の祇園村(その後町制施行により祇園町)、長東村、山本村、西原村、東原村(西原村と東原村はその後合併し原村)は、昭和18年(1943年)に合併して一つの町「祇園町」となりました。戦後も野菜などの近郊農業が続けられてきましたが、広島市の発展・拡大に伴って農地の宅地化が進み、都心に近接したベッドタウンとなっていく。昭和47年(1972年)、広島市に編入合併し、昭和55年(1980年)の政令指定都市移行を受けて、安佐南区の一部となりました。



旧石街道

山麓と山陰を結ぶ街道ですが、その前身は中世の山麓道と考えられています。山麓道は近畿と九州を結ぶ官道で、デルタが未発達な頃は武田山の北を通っていました。その時々で道筋は異なりますが、牛田(東区)から太田川を渡り、長東、西原、祇園、大町、沼田へと抜け、五日市(佐伯区)で海へ出た時期があったと考えられています。

石街道としての本格的な整備は江戸時代に行われました。新町(中区)付近の西国街道を起点に可部(安佐北区)で出雲国(島根県東部)や石見国(島根県西部)へ分かれていきます。旧祇園町内では旧国道(東道古市広島線)とほぼ同じ場所を通っていましたが、JFR下祇園駅付近の旧国道の東西には、昔の街道の特徴を示す「折目目」のある道が残っており、時代による道筋の移り変わりをうかがい知ることができます。

石街道は、明治以降も国道、県道となって広島の南北交通を担ってきました。しかし、戦後になると自動車の普及や広島市の拡大発展に対応しきれなくなります。現在は、国道183号・国道54号にその役割を譲り、旧街道の風情がわずかに残る地域の主要な道路として利用されています。

「折目目」裏面の「萩原の街並み(拡大図)」をご覧ください。

正しい歩き方
 せっかくなら、正しく歩いて「健康ウォーキング」にしませんか?
 胸を張り背筋を伸ばし肩の力を抜いてリラックス
 つま先で歩く
 腕を振り足踏を大きく振り
 顔を前へ
 かかとから着地
 あごを引き目線はまっすぐやや遠くを見る
 呼吸は自分のリズムで...
 肘(ひじ)をやや曲げて大きく振る
 おなかを引き締める
 膝(ひざ)を伸ばして大きく前へ
 ウォーキングは...
 肥満・高血圧等の生活習慣病を予防・改善するだけでなく、脳の活性化により、認知症や老化の予防、筋力アップによる転倒予防にも効果的です!
 広島じゃけんひろしま21
 ～安佐南区では、「健康ウォーキング」を推進しています～

この印刷物は再生紙を使用しています

① 安神社 やすじんじや

元の名を「経路社」といふ地名の由来にもなっています。当初、松尾山(祇園中学校付近)にありましたが、正安(1299～1301年)の頃、兵火に遭い焼失しました。幸い御神体は祭礼のために観音所現在の場所において難を逃れたので、その後、武田氏がこの場所に社殿を建立したと伝えられています。明治43年(1910年)にも火災に遭いましたが、御神体は再び難を免れています。現在の神殿は、大正2年(1913年)に再建されたものです。柿の一品種「祇園柿」の発祥地とされ、平成17年(2005年)に記念樹が社殿の一角に植えられました。昔、社信が境内に植えていた柿を、訪主頭にまで送らえて、こう呼んだものと伝えられています。なお、奥道(旧国道)の向かい側の船業須神社(商業の祭神は、元々安神社の境内にあったものです)。



② 冬木神社・楊柳観音 ふゆきじんじや・ようりゅうかんのん

冬木神社：昔、西原に神社はなく、人々は太田川を渡って戸塚(東区)の狐川木神社に参拝していました。しかし、洪水で渡れないこともしばしばあったため、氏子らの嘆願によって正徳元年(1644年)に建立されました。ここで奉納される神楽は、天明の大肌踊(1782～1788年)や疫病に苦しんだ村人が慰められ五穀豊穡を祈って始めたものといわれています。伝統的な神楽の形式を今に残す「西原上十二神祇神楽」として広島市の重要無形文化財に指定されています。楊柳観音：冬木神社の境内に立つ観音寺の本尊です。弘安6年(1283年)、武田信俊が安芸国へ赴任する時、甲斐国(山梨県)に親したはずの観音像が、馬の尾に抱いていたのを見つけ、武田山麓に堂を造ってこれを安置したことに始まります。その後、戦火を逃れるため家臣の家などにかくまわれ、永享16年(1409年)、武田信元の手で西原の地へ移されました。享永3年(1850年)の大洪水で本堂が崩壊したため、冬木神社境内に仮安置されましたが、大正4年(1915年)、その場所に京都の六角堂(頂法寺)を模した真鍮造りの本堂が再建されました。



③ 熊野神社 くまのじんじや

「新宮社」ともいふ、熊野速玉神社(和歌山県)の分霊と伝えられています。この辺りでは火災が多く、天文年間(1532～1554年)、武田氏が社殿を創建したところ火災が頻らなくなりしました。以来、火防の神として崇敬されてきました。また、境内の天保7年(1836年)と刻まれた石灯籠には「笠吹(折敷の復讐)」が見られます。



④ 蓮光寺と蓮華松 れんこうじとれんげまつ

弘安8年(1283年)、武田信俊の次男で僧侶だった清順により「松陰坊」として始められました。当初は下安の仏蔵寺(祇園北高校付近)にあり、その後、「蓮光寺」と改称して、大塚(安佐南区)、寺町(中区)への移転を経て、寛永7年(1630年)、長東へ移ってきました。その時に植えられたクロマツが、境内を覆うように枝を伸ばした蓮華松(樹高9m、枝張・東西26m・南北25m)で、広島県の天然記念物に指定されています。



龍石と龍原十二坊

龍原と呼ばれたこの地(紙園北高校付近)に昔からあった石で、この上に何度も廻り降りる二羽の龍を見た武田義信は、靈験のある場所だと考え、ここに12の寺院(龍原十二坊)を建てました。これらの寺院の中核となっていた仏園寺は、現在広島別院となっております(中区)にあります。



広島経済大学の一般利用可能な施設について

図書館：免許証・保険証等、住所が確認できるものがあれば、利用カードを発行してもらえます。
学生会館：売店や食堂もあります。5階のレストランは見晴らし良好です。このほか、一般の方も参加可能な特別講義も行われています。
詳しくは、広島経済大学までお問い合わせください。 広島経済大学 TEL.082-871-1000
※封鎖の際は、「就学の場」であることをくれぐれもお忘れなく!

広島経済大学や山麓の市街地を見渡せるポイントだよ

記号の説明

<ul style="list-style-type: none"> まちめぐりルート 区間の距離 単位:3km 	〔まちめぐり資源〕 <ul style="list-style-type: none"> 公園 緑道 河川・水路 神社、寺院、碑、その他由来のあるもの 特徴ある風景・街並み 眺望場所 樹木 資源の解説板 	〔目撃物・その他〕 <ul style="list-style-type: none"> バス停留所 コンビニエンスストア スーパー・ショッピングセンター ガソリンスタンド 郵便局 文番 トイレ 目印となるカーブミラー 注意するポイント
--	--	--

注) 〇で示したものは裏面に解説があります。

紙園・大町ルート

河内神社 0.2
長い生け垣
尾首日吉神社 0.4
「古市橋」の解説
いぼ地蔵の松
熊野神社 0.4
蓮光寺と蓮華松 0.1
安芸津彦神社 0.5
安神社 0.1
恵美須神社 0.1
長束神社 0.5

山麓の道からの眺望
どかな田園風景
「古市橋」の解説
いぼ地蔵の松
旧国道歩道がないので、通行には十分ご注意ください

花みずき台東公園
紙園北高等学校
紙園老人運動広場
紙園第一公園
紙園五丁目
紙園小学校
紙園中学校
紙園公民館
紙園福祉センター
紙園運動広場
紙園大橋北
紙園大橋南

古市橋駅
古市橋駅前
紙園駅
紙園駅前
紙園南駅前
紙園北駅前
紙園東駅前
紙園西駅前

線井・上安方面 ↑
可部方面 ↑

紙園・長束ルート

安芸津彦神社 0.1
勝想寺 0.2
安神社 0.2
恵美須神社 0.3
冬木神社・楊柳観音 0.1
熊野神社 0.4
蓮光寺と蓮華松 0.1
安芸津彦神社 0.5
安神社 0.1
恵美須神社 0.1
長束神社 0.5

紙園の街並み
紙園の街並み(拡大図)
折り目

紙園小学校
紙園中学校
紙園公民館
紙園福祉センター
紙園運動広場
紙園大橋北
紙園大橋南

紙園南駅前
紙園北駅前
紙園東駅前
紙園西駅前

可部方面 ↑

紙園の街並み(拡大図)

今は県道となっている旧国道沿いには、細い路地、「うだつ」の上がった立派な商家など、かつての街並みの面影がわずかながら残っています。

「うだつ」は町屋と呼ばれる明治時代以前の商家に見られる構造です。延焼防止のためといわれていますが、商人らはその豪華さを誇ったため、「うだつが上がらない」などと成功や出世の例えに使われています。

折り目
道を直角に折り曲げた場所で、昔の街道ではよく見られる形状です。敵の進軍を妨げるためにも、大名行列に遭遇した町人が土下座を早く終わらせるためにもいわれています。

